

## 令和2年度 第1回南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会会議録（要点記録）

日 時 : 令和2年 6月17日（水）午後6時～  
場 所 : 南砺市役所 利賀行政センター 2階特別会議室  
出席者 : 委員12名（うち代理出席1名）（欠席5名）  
          アドバイザー3名 事務局6名、傍聴者0名  
報告事項 : (1)山村留学事業のこれまでの取組について  
協議事項 : (1)南砺市利賀地域長期山村留学事業について  
          (2)短期山村留学事業について

### ◎会議録

教育総務課長 :

本日は何かとご多用のところご出席いただきありがとうございます。

只今より令和2年度第1回南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会を開会します。

さて、南砺市では平成26年度より山村留学定住について調査及び研究を開始しました。

平成28年度には利賀地域山村留学定住推進協議会を設置し、委員各位のご意見をいただきながら利賀地域における山村留学定住事業の円滑な運営と指導體制を推進しているところです。本日は、これまで長期間にわたり議論を重ね、地域の皆様にご協力いただきながら事業を展開してきた成果として、来年4月より開始予定の利賀地域長期山村留学事業を中心に協議いただきますので、皆様の忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

開会にあたり南砺市教育長の松本謙一がご挨拶いたします。

教育長 :

委員の皆様には大変お忙しいところお集りいただき誠にありがとうございます。

市内の小中学校は6月から再開し、ようやく軌道に乗り始めたところです。

山村留学事業については、来年度から長期山村留学生の受入れを始めるということで、新型コロナウイルスの影響で不透明な点もありますが、予定どおり進めたいと思います。

利賀地域の皆さんには、これまで長い間ご検討を重ねていただき、育てる会の山本さんには、この4月から利賀にお越しいただき、地元との良好な関係を築きながら来年度に備えていただいています。

本日は、来年度からの長期留学に向けて忌憚のないご意見をいただき、地域と育てる会と学校、教育委員会が一体となって利賀地域の子供たち、利賀地域の皆さん、そして山村留学に来る子供たちにとって価値のある事業にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

教育総務課長 :

続きまして、本協議会会長の野原哲二様よりご挨拶をいただきます。

協議会長 :

本日は大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

教育長からも話がありましたとおり、いよいよ来年度から山村留学制度がスタートするというこ

とで、本日は今後のスケジュール等について皆様と検討したいと思います。

地元としても非常に大事な事業ですし、なんとか成功させたいと考えていますが、世間はコロナで大変な状況ですので、どういった内容でどういう風にすれば実施できるかということも踏まえて、取り組んでいきたいと思っています。

今は理論上、机上の思いだけで動いているところがあるので、それらを具体化するためにどうすればいいかを一生懸命考えてやっていければと思いますので、よろしくお願いします。

教育総務課長：

ここからの進行は、野原会長にお願いしたいと思います。

協議会長：

それでは次第に沿って進めます。

協議事項に入る前に、今回、交代になられた委員の方もおられるので、山村留学定住事業のこれまで取組みについて、事務局より報告をお願いします。

－ 資料1について、事務局より報告 －

協議会長：

只今、事務局から「これまでの取組」について説明がありましたが、ここまでで何かご質問はございますか。

－ 質問・意見なし －

ないようですので、協議事項に入りたいと思います。協議事項の(1)「南砺市利賀地域長期山村留学事業」の実施計画(案)及びスケジュール等について、事務局ならびに事業を委託している育てる会、南砺市商工会利賀村支部から説明をお願いします。

－ 資料2-1及び2-2について、事務局より説明 －

－ 資料2-3、2-4、2-5について、(公財)育てる会より説明 －

協議会長：

いまほど、協議事項(1)について説明をいただきましたが、受入側として皆さんからご意見はございますか。

委員A：

長期留学生は10名程度の募集で、少なければ2次募集も行うということですが、もし募集人数を超える応募があった場合の選考基準を教えてください。

育てる会：

選考自体は、保護者と子供との面談で決定することにしており、そのお子さんが山村留学に向い

ているかという点を重要視します。今年の短期留学で夏と冬に体験キャンプを計画しているなかで、これまで先着順で決めていた参加者を、今年に限っては山村留学に対して熱意のある方、そして生活スキルを持っている子供たちを選考する予定です。

同じように長期留学の一次面接でも、保護者との面談、子供との面談、また、育てる会で作成しているチェックシートをご記入いただき、教育委員会、本協議会の関係者、学校、そして我々育てる会とで協議し決定する予定です。

協議会長：

ほかにご質問がないようでしたら、次に（２）「短期山村留学事業等について」に移ります。夏期体験キャンプ及び「こどもゆめ基金」助成活動、冬期体験キャンプの実施（案）について育てる会及び南砺市商工会利賀村支部より説明をお願いします。

育てる会：

短期山村留学事業についてご説明する前に、先ほどの関連で追加説明をしたいと思います。

留学生の面接等において、お子さんは自然体験活動の集団生活と学校での様子が若干違うことがありますので、可能であれば学校で２時間くらい授業に参加し、先生方にも授業に対する姿勢などを実際に見ていただきたいと思います。

日程上不都合な点もあるかと思しますので、今後学校側と協議させていただければと思いますのでよろしくをお願いします。

－ 資料３－１及び３－２について、育てる会より説明 －

協議会長：

今ほど説明いただいた点について、地元の子供たちとの関りも増えると思しますので、学校側としてどのように取り組んでいくか、また心配事などについて学校側からご意見はありませんか。

委員Ｂ：

手元に行事予定がないので何とも言えませんが、日程を調整すれば日曜日、月曜日の２日間に現地見学会を行うことは可能と考えています。

また、２時間程度授業に入る点も、教員としては非常にいいことだと思います。ただ、学習進度が異なるので４教科でなく、基本的には道徳や体育、芸能教科が中心になると思います。学習進度も関係するので、子供たちにとって充実した学びにならないかもしれない点は心配です。

育てる会：

体験活動では元気だったが子が、学校では全く元気がないということは避けたいので、集団の中での様子を見ていただきたいと思います。授業内容や教科については、学校も再開されたので、学校側のご都合をお聞きしてご相談に伺います。

教育長：

校長先生が言われたように道徳はいいと思います。授業として１回きりで終わりますし、その子

が1時間程度座っていただけるかという点もわかると思います。

委員C：

中学校の行事予定で、年度当初は9月の4連休に新人大会等が予定されていまして、小学校と同様に、日程や夏季と冬季の時間の使い方という点も含めて調整させて下さい。

協議会長：

説明の中では、利賀の子供たちも活動に参加してもよい、参加してもらいたいということでしたが、保護者としてどんな考えをお持ちでしょうか。

委員D：

年度末の3月に、教育総務課そして商工会の皆さんで、コロナ禍にも関わらず保育園で説明会を開催していただきました。保育園の保護者、そして小学校の保護者3名が説明を受けましたが、概ねご理解は得られたのではないかとというのが私の実感です。保護者の視点から、他の保護者の方にも説明していきたいと思っています。

協議会長：

来年4月の本格的な実施を前に、今年は前段階でいろんな事業が組まれています、コロナの関係でいろいろと変更になることがあると思います。

その中で、一つの指標をもって活動をしていかないと、来年に向けて不安を残すのではないかとこの点を心配しています。地元利賀の人間として協力していきたいという思いはありますが、全村的にはあまり浸透していないという思いもありますので、周知の意味で行っていることや、方策等について、商工会から何かありますでしょうか。

商工会：

育てる会の山本さんが、来年の事業開始に向けて利賀にお越しいただいていますが、残念ながらコロナの影響で会議や集まりがない状況です。お祭り期間にも獅子舞の練習に顔を出したりする予定でしたが、獅子舞もありませんでした。これからは、小さな会合でも顔を出し、事業の説明をしていくなかで、子供たちが来るだけでなく、その親御さんも利賀を気に入っていただく、特にコロナ禍で都会の密集した環境よりも利賀のほうが良いという思いを持たれることにも希望を持っています。

協議会長：

7月8日の夜に地域づくり協議会の役員会を開催する予定です。その際に育てる会の山本さんにお越しいただき、チラシを配布したり、山村留学について説明いただければと思っています。

そういった機会に、少しずつ浸透を図ることも大事だと思いますので、このメンバーだけでなく地域内に周知していくことが重要であることを、皆さんにご理解いただきたいと思っています。

教育長：

山本さんにはそういう場にお越しいただき、東京などで行っているプレゼンテーションのようなこ

とを小中学校の保護者会などでアピールいただくようお願いします。そして、利賀地域に限らず南砺市全体にも広報、発信するようにして、この事業を市民の方に知ってもらいたいと思います。

また、南砺市の子供たちと一緒に自然体験活動を行うという点を広めていただくと、市民全体にも価値があり、また利賀の存在意義を伝える効果があると思います。

協議会長：

従来までは、東京武蔵野市の子供たちと触れ合う機会もあったが、今年はすべて中止となっています。利賀の子供たちも寂しい思いをしていると思いますので、こういった機会に、子供どうしの交流、大人どうしの交流、地域全体での交流ができるような雰囲気を持っていきたいです。

育てる会：

こちらから確認でお聞きしたいのは、コロナ禍という状況の中で、8月の体験キャンプで子供を迎え入れるのかという点です。国の方は補助金もつけるなどして実施に前向きですが、東京を中心とした野外活動の団体は野外キャンプを中止にしており、私どもの会でも通常のキャンプは中止としました。私たちの活動は、地域の皆さんのご理解がないと事業を実施できません。利賀地域として、村のため子供のために地域を挙げて実施するんだという総意があれば、我々も堂々とお手伝いできますが、地域の方で少しでも不安に感じている方がいらっしゃるのであれば、8月を延期することも考えたいと思いますので、みなさんのご判断をお聞きしたいと思います。

教育長：

教育委員会として確認させていただきたい点ですが、一点は長期留学生の募集対象は小学校3年生から中学校2年生として良いかということですが、合意いただけますでしょうか。

－ 全委員が合意 －

教育長：

もう一点は、8月の体験キャンプを実施するかという点です。

教育委員会としては、小学校も中学校も保育園でも毎朝体温を測っていますので、実施することが決まった時点から毎朝体温を測って報告する形をとっていただくなど、コロナ対応を守ったうえであれば問題はないと考えています。

教育部長：

育てる会から説明があったように、利賀地域の方が東京の子供の受入れることに不安を感じるのであれば実施を見送るという点について、この場で結論は出ないと思いますが、どこかの時点で決断が必要になります。7月1日から募集を開始するのであれば、6月末を目途に一旦の活論を出したいと思いますがいかがですか。

委員E：

今の状況から特別変化があれば別ですが、基準に沿った対応が可能であれば実施の方向で進めていただきたいと思います。コロナは長期化する恐れがあるので、今後はその対応を想定しながら進めてい

かないと何も成り立たないですし、来年度からやっていける状況を作る意味でも、前向きに進めていくべきだと思います。

また、説明の中で農家という言葉がでてきますが、受入れ先が純然たる農家でなはない場合もあるので、民家という形で考えてもよろしいですか。

育てる会：

自然と対峙しながら地域の中で暮らしているという意味ですので、そういうとらえ方で良いかと思ひます。ただ、インパクトがありますので農家という言葉は使わせていただきたいです。

協議会長：

実施できる状況であれば実施したいと思ひますが、最終的に誰がゴーサインを出すのかという点が気になります。地元の意見もあると思ひますが、最後は誰の判断になるのでしょうか。

教育長：

現時点で、夏のキャンプは実施の方向で進めるということですが、6月末の時点で誰が結論を出すかについては、会長、副会長、育てる会、商工会、そして教育委員会の5者でどうでしょうか。

協議会副会長：

結論を出すにあたり、ある程度のマニュアルが必要ではないでしょうか。こういう事態に対してこういう対策をとっているのだから大丈夫だとか、こういう対策はとれないので無理だとか、志でやろうというのもいいですが、基準もなく何となくの雰囲気を決めるものではないと思ひます。

教育長：

やめるにしても根拠が必要だということですね。

協議会副会長：

例えば東京の感染状況であるとか、南砺市内で感染者が発生した場合ですとか、おおまかで良いので基準を定めればと思ひます。

協議会長：

基準については、今この場では決められないので、今後検討することとし、事務局で基準案を作成をいただければと思ひます。

その基準案をもとに根拠づけを行い、6月末の時点で実施するしないを先ほどの5者が協議のうえ決定することにしたいと思ひます。委員の皆様よろしいでしょうか。

－ 全委員が承認 －

事務局を中心に、連絡を密に取りながら検討していきたいと思ひます。  
それでは事務局にお返しします。

教育総務課長：

今回の協議会ですが、例年は9月頃に開催し短期留学についての議題を中心に協議していましたが、今年度は9月から長期山村留学の募集を開始しますので、その状況が見えてくる10月以降に開催できればと思います。日程は決まり次第ご案内します。

それでは閉会にあたりまして野原副会長よりご挨拶をいただきます。

協議会副会長：

本日は第1回の協議会ということで、お疲れの中お集まりいただきありがとうございます。山村留学事業については、平成26年から7年間をかけて進めており、いよいよ来年の4月から本格実施というところまでできました。皆様のご協力のもと形になってきていることに深く敬意と感謝を申し上げます。

協議の中でもあったとおり、コロナ禍の中で今後、話が二転三転すると思いますが、まずは行動を起こすということを念頭に置いて進んでいきたいと思っています。

これからも皆様のご指導を賜りますことをお願いして、閉会のあいさつに代えさせていただきます。本日はありがとうございました。

教育総務課長：

本日はご多用のところ、ご出席いただきありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度第1回南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会を閉会致します。長時間のご協議、ありがとうございました。

(19時25分閉会)